

令和7年度 第2回養父市立図書館協議会 議事録

- 1 開催日時 令和8年2月18日(水) 10時～12時
- 2 会場 やぶ市民交流広場 大会議室
- 3 出席者 鷹野恭子(会長)、池田ビルギット(副会長)、安本靖史(小学校長)、
岩浅克友希(中学校長)、有本正彦、守本加代子、松岡弓果、山崎友香、
宮本裕美
事務局5名…(本館)藤本、白岩、毛利、西谷、(関宮分館)吉田
- 4 内容 *司会進行…事務局(白岩)
 - (1) 開会あいさつ
 - ア 鷹野会長
 - イ 藤本館長
 - ・来年度の取組である図書館の基本的運営方針の策定や図書整備事業費の活用用途についての検討などを交えて挨拶する。
 - (2) 報告事項
 - 令和7年度事業経過報告について
 - ・令和7年度の主な事業について、資料をもとに写真を提示しながら概要を説明する。また、資料にある統計データをもとに、本館及び分館の利用状況、各種サービス(複写等)件数、現在の開架率等について説明する。
- 5 協議事項

第1回と同じ協議題を設定し、前回の協議内容と本年度の事業展開の状況を踏まえて各委員から意見等をいただく。

 - (1) 地域性を活かした特色ある図書館づくりについて
 - 公立図書館の存在意義や役割が大きくなっている中、同じような図書館が市内に点在するのではなく、市内配送便等の仕組みを活かしつつ、各館が地域のニーズに合わせた資料収集・蔵書管理を行い、特色を出していくことがこれからは必要になってくるのではないかととらえている。ご意見をいただきたい。(第1回協議会議事録より引用)
 - (事務局より前回出された主な意見に基づいた事業実施報告)
 - ① 「各地域で主たる産業やイベントに関する選書をしったり地域にゆかりのある偉人の特集を行ったりすることで、各館の特色づくりにつなげることはできないか」という前回の意見に基づき、各分館開催のイベントに合わせ、落語関連、音

楽関連の資料を意識的に選書したことを報告する。あわせて選書の流れについても説明する。

- ② 「朝来市の『おはなしフェスティバル』を参考にしたイベントを養父市でも行ってみてはどうか」という前回の意見に基づき、『養父市わくわくおはなしフェスティバル』を昨年11月に開催し、地域の秋祭りなどさまざまなイベントと重なったが35名ほどの親子の参加があり、盛況に終えられたこと、本年度の反省を活かして引き続き来年度の開催も検討していることを報告する。

＜出された主な意見＞

- ・ 養父分館には入り口近くに時期に応じたテーマで展示がこまめになされており、目に留まりやすい。
- ・ 関宮分館は館内に「養父市文化財展示室」が新たに開設されたが、子どもと一緒にいっても、子どもが理解でき楽しめるように、その特色を生かして、歴史文化財課と連携して子どもたちにも分かりやすい展示内容に努め、幅広く利用者の学びが深まる取り組みをお願いしたい。
- ・ 山田風太郎記念館と関宮分館を行き来できるような工夫を記念館と分館同士で施していきたい。
- ・ ホール・公民館イベントと図書館イベントを切り離すのではなく、互いの関係が密接に保てるような展示をしてほしい。館内だけにとどまらずホワイエや大会議室等での展示も検討してほしい。
- ・ 前回の会議で出た意見についてすぐに対応いただいていると感じた。本館に所蔵してほしい文学全集や郷土資料が分館に所蔵されている場合、必要に応じて所蔵館を変更することは可能なのか。
- ・ そもそも来館してもらわないと意味がない。図書館の魅力をA3用紙にまとめて広報するのはどうか。難しいのなら他図書館を参考に養父市でも「図書館だより」を作成してはどうか。
- ・ 興味がない人はいくら図書館だよりを作成しても手に取ってくれないと思う。無線（有線）放送を活用して耳から宣伝していくのはどうか。

(2) 先生方や高校生にとって利用しやすい図書館づくりについて

○日常的にたくさんの高校生が図書館を学習する場として利用している一方で、年代別の貸出冊数においては高校生の年代が一番少ない状況にある。「ブックスタート」を契機として、本に親しみ読書の楽しさを感じ得る経験が幼児から中学生まで丁寧に積み上げられている中で、その取組が高校生につながっていないのではないかと危惧している。高校性の貸出冊数を伸ばそうとする仕掛けづくりは、各年代へのアプローチにも役立ち、ひいては図書館全体の充実にもつながっていくものとする。また、市内の小中学校・義務教育学校の先生方から教育書等のリクエストを募り、図書館に学校と連携したコーナーを創ることにより、学校の取組や授業の教材研究、

児童生徒・その保護者への対応等に役立つ図書館づくりも今後工夫していけたらと考えている。ご意見をいただきたい。(第1回協議会議事録より引用)

(事務局より前回出された主な意見に基づいた事業実施報告)

- ・ 「書店の展示方法を参考にして、ヤングアダルト図書の展示を工夫し、中高生の目につきやすく手に取りやすい場所に設置してはどうか」という前回の意見に基づき、本館書架増設後に棚の配置を変え、閲覧・学習スペースに面したところに進路選択について書かれた中高生向けの本などを配置したことを報告する。取り組みの効果か高校生の図書貸出カードの新規登録者数が徐々に増加してきたが、いまだ若年層の利用率は伸び悩んでいることについても報告する。

<出された主な意見>

- ・ 養父市立図書館が開館してから図書館の利便性が非常に高くなったと感じる。しかし、昨今様々な場面でデジタル化が進められており、紙媒体を主とする図書館は大きな壁に直面しているだろうと思う。
- ・ これまでの取り組みを可能な範囲で続けながら持続可能な図書館づくりに取り組んでもらいたい。
- ・ 子どもだけでなく親世代の活字離れも深刻だと感じており、子どもは親の影響を受けて育つことから必然的に子どもの読書離れが進んでいるととらえている。
- ・ 若年層のことは当事者に聞かなければ分からないので、例えば二次元コードを使用してアンケート調査を行ってみてはどうか。
- ・ 授業の一環として高校生に図書の帯や紹介文を作成してもらい、それらを展示するコーナーを設けてはどうか。自分の成果物を見たいという気持ちがきっかけとなり図書館に立ち寄る学生が増えるかもしれない。
- ・ 図書館の機能は今や貸し借りに限らず学習の場の提供など多岐にわたっている。貸出冊数や登録者数とはまた別の数字として表れる利用者もいる。そのような“利用者数”が多いことは養父市立図書館の特色だと思う。
- ・ やはり実際に本と触れ合う機会を設けることは、若年層にとって図書館をより身近なものとするきっかけとして有効だと考える。中学生の部活動の地域展開について何か図書館と連携した活動が工夫できないか。
- ・ 館内にさまざまな仕掛けを施すことで若年層を惹きつけることができないか。まるで図書館自体がびっくり箱のような施設になると楽しいと思う。
- ・ 若年層を対象とした文庫を増やすのはどうか。文庫本は単行本と比較して軽くてかさばらないので読みやすさや持ち運びやすさから高校生に需要があるのではないか。

(3) その他、市民の読書活動の充実にに向けた方策について

<出された主な意見>

- ・ (“机上でひと言”と題して閲覧机にひと言メモを置いた取り組みについて)とても楽しい取り組みだと思う。だが、ただ置くだけではなくて図書館の広報につ

なげたらどうか。たとえば、二次元コードを載せて図書館が運営している各種 SNS にリンクする仕組みを作るのはどうか。

- ・ 学習のために利用されている学生が多く座って本を読みたいのに席がない。落ち着いて読書ができる隠れ家のような空間を作ってほしい
- ・ 毎月おはなしかい開催についてのお知らせをケーブルテレビでしているが、あまり届いていないように思う。チラシを小学校に配布するのはどうか。

6 その他、事務連絡

- ・ 令和6・7年度の協議会委員の任期が満了すること、来年度は本協議会の開催回数を増やし、図書館の基本的運営方針の策定も進めていく予定であることを伝える。

7 閉会